

石川県七尾美術館だより

平成28年1月1日発行
編集・発行 (公財)七尾美術財団

第84号(冬号)



①



②



④



③

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



写実力と想像力

- ①「朱盆に果実図」 青木 大乘 明治～昭和時代
②「海」 稲元 実 昭和55年(1980)

春の優品おもてなし～絵画・工芸・写真を中心に～

- ③「織部菊図折込鉢」 桃山時代
④「冬の道」 斉田 正一 平成18年(2006)
※全て当館蔵 (①・③は池田コレクション)

展覧会紹介

平成28年1月5日(火)～4月17日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

「色とりどりの器たち」

「顔・かお・力オ」

12月18日(金)〔開催中〕～平成28年2月14日(日)

昨年開館20周年を迎えた当美術館。平成7年の開館より様々な美術工芸品を収集し続け、現在に至ります。所蔵品は現時点で約740点。作品の充実にご協力いただきました皆さまには、ここに改めて御礼を申し上げます。

その内容は「池田コレクション」と「能登ゆかりの作品」に大別され、絵画から彫刻・工芸・書・写真まで、そして時代は中世から現代までと、実に多種多様な顔ぶれが揃います。

当館では、それらの優れた品々をできるだけ多くの方々に鑑賞いただけるよう、定期的に所蔵品紹介の展覧会を開催してきました。本展もその一環として、2テーマであわせて67点を紹介しています。



「色絵捻文八角鉢 吉田屋窯」
(池田コレクション)



「草叢での会話」堀場良夫



「鐘馗図」富田溪仙 (池田コレクション)

◆第1展示室

「池田コレクションにみる 色とりどりの器たち」

まわりに存在する無数の器。姿や形、価値もさまざまです。何でもない普段使いの器もあれば、何百年もの時を経た文化財クラスの器、そして美術工芸の粋が凝らされた華麗極まる器にも、めぐりあうことがあるでしょう。

七尾市出身の実業家・池田文夫氏（1907～87）が蒐集した当館所蔵品の中核「池田コレクション」計287点にも、たくさん貴重な器たちが含まれています。

特に昨年、やきものを中心とした新たな作品83点が追加されたことにより、それらはさらに彩り豊かになりました。

本テーマでは「池田コレクション」より、やきものや漆による壺や皿、鉢など計35点の「器」を展示しています。



【出品作品より】
「黄瀬戸盃」 桃山時代（16～17世紀）
(池田コレクション)

黄瀬戸は桃山時代に美濃国で制作されたやきもの。黄瀬戸のトレードマークといえる艶やかな黄釉がふんだんに掛かり、シンプルな形によく映えています。

◆第2展示室

「顔・かお・力オ」

「すばらしきかな、その表情」

誰かと会った時、あなたは最初に相手のどこを見ますか？恐らく、多くの方は顔を見るのではないのでしょうか。

人の顔は目や鼻、耳といった感覚をつかさどる器官が集中する、とても重要な部位です。またその時々感情によつて表情も変化。表情ひとつで人は美しくもなり、また醜くもなります。

「顔が広い」「顔色をうかがう」など顔にまつわる慣用句もさまざま。それだけ顔は、その人を象徴する大事なところであるという証でしょう。

本テーマでは、「顔」がポイントとなっている作品を、当館所蔵品の絵画や工芸、彫刻をとおして紹介します。

怒った顔、泣いた顔、そして笑った顔。色々な「顔」をお楽しみください。



【出品作品より】
「木彫養老」 関野聖雲
大正10年（1921）（池田コレクション）

岐阜県の伝承「養老の滝伝説」を表した作品。場面は木こりの息子が泉にわく酒をくむところ。その幸せそうな表情といたら。ぜひ会場でご観覧ください。

◆共通観覧料

	一般	個人	団体
大高生	2800円	3500円	2200円
一般	2800円	2800円	2200円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

「写実力と想像力」

「春の優品おもてなし」

「絵画・工芸・写真を中心に」

2月27日(土)～4月17日(日)

◆第1展示室

「写実力と想像力」

美術工芸作品の表現方法は多種多様ですが、描く対象を深く観察し、写実力によってまるで写し取ったかのように表現されたものがあります。また、実際にはあり得ない、実在しないものや風景などを、作家たちが想像力を働かせて頭の中で構築して作り上げた作品もあります。

本展では、日本画・洋画に一部彫刻作品を加え、約20点を紹介いたします。

《主な出品作品紹介》

◆写実力◆

日本画「5TH AVENUE & BROADWAY」中町 力

平成7年(1995) 第27回改組日展



高層ビルが立ち並ぶ大都会の風景や、街の中のふとした光景を、確かな写実力で表現する作者が、アメリカ合衆国の大都市・ニューヨークを描

いた作品です。「X」字にクロスする五番街・ブロードウェイの日常的な光景…。光の方向や影の形など細部にまでこだわって表現した作品からは、都会の喧騒が聴こえてきそうです。

◆想像力◆

洋画「海の歌」野中 未知子

平成6年(1994) 第40回一陽展



水と生命をテーマに表現する作者が、「多感な頃に見た船の印象が忘れられない」と、その印象からさらにイマジネーションを働かせて描いた作品です。海水は様々な色が混ざり合い、要所に白く薄い和紙を用いることで、優しい陽の光を浴びてきらめいているようです。

◆第2展示室

「春の優品おもてなし」

「絵画・工芸・写真を中心に」

当館所蔵作品から絵画・工芸・写真など、幅広い内容で約30点を展示する展覧会です。

絵画では、長谷川等伯が信春の名で活躍した時代に描いた「善女龍王図」と「陳希夷睡図」を、同時代を生きた後奈良天皇の和歌懷紙と共に展示。石川県ゆかりの現代作家たちが描いた、個性豊かな日本画と洋画も紹介します。また、工芸では池田コレクシヨンより桃山時代から江戸時代の織部焼を中心に、一部志野焼や漆工作品も含めて紹介する他、石川県ゆかりの作家たちが写し捉えた、迫力のある写真作品も展示します。

異なるジャンルのさまざまな表現と、それぞれが持つ魅力をお楽しみください。

石川県指定有形文化財

「善女龍王図」長谷川 信春(等伯)



右下部に「信春」袋形印が捺された、絵仏師時代の作品です。善女龍王との伝承を持ちますが、『法華経』に登場する8歳で成仏した龍王の娘、龍女との見方が有力です。小品ながら緻密な筆致で描かれ、水中の岩盤に立つ姿は存在感があり「さすが等伯」といったところでしょう。

「根来春日卓」池田コレクシヨン

長年使いこまれることによって表面の朱漆が摩耗し、所々に黒漆が現れて味わいがあります。また、削り抜かれた格狭間や、細い曲線の鷲脚は繊細で優美です。天板裏には永正15年(1518)の年紀があり、制作年が明らかな室町時代の優品といえます。



◆共通観覧料

	一般	個人	団体
大高生	2800円	2800円	2200円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

ボランティア研修旅行報告



当館の監視をお願いしているボランティアスタッフを対象に毎年研修旅行を実施しています。今年度は7月27日(月)に、ボランティアさん17名と職員4名で金沢へ行ってきました。最初に、去年春にリニューアルされた石川県立歴史博物館へ。北陸新幹線金沢開業を記念して夏季特別展「大鉄道展」と常設展を自由に鑑賞。途中、ガラス張りの空間「ほっとサロン」で休憩される方や、なりきりショットのコーナーで写真撮影される方など、それぞれにゆったりと館内を回ることができました。次に加賀本多博物館へ移動し、本多館長の解説で展覧会を鑑賞しました。

次にヤマト醤油味噌へ。ヤマト糰パーク内、発酵食美人食堂にて「発酵食美人ランチ」をいただきました。昼食を終え、糰蔵へ。麴と糰の違いについて、また「汁一菜に「糰」健康で美しい身体づくりを目指してほしいとお話くださいました。糰蔵の中はクラクラするほど暑かったにもかかわらず、ボランティアさんは熱心に学んでおられました。毎度のことながら、その探究心には驚かされます。名物「醤油ソフトクリーム」も、独特の風味で美味しかったですね。

今年は天候にも恵まれ、参加いただいた皆さんのご協力のもと、有意義な研修となりました。



糰蔵にて



石川県立歴史博物館にて集合写真

「本邦初公開!よみがえった等伯水墨画を中心に」展 & 関連催し終了報告

◆去る9月19日から10月25日まで、開館20周年・新収蔵記念企画として右記の展覧会を開催、新発見の「猿猴図屏風」と「松竹図屏風」の他、「竹林猿猴図屏風」などの重要文化財4点や「複製松林図屏風」を公開しました。新発見作品を全国に先駆けて初公開ということで、遠方からも美術ファンや等伯ファンが数多く来館し、賑わいました。開会式には七尾市立能登島小学校6年生の皆さんを招待、初公開に花を添えていただきました。

また、会期中は様々な催しを開催しました。

★9月22日に開催した「修復報告・スペシャル座談会」は、山下裕二氏、黒田泰三氏、青木芳昭氏、物部泰典氏によるレアな座談会ということで会場はほぼ満席。発見当時のことや等伯真筆との判断理由、制作年代など貴重なお話を伺うことができました。先生方には、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

★9月23日に開催した小学校高学年・中学生対象の「子ども水墨画アーティスト誕生!」、10月4日に開催した高校生以上対象の「等伯に挑む!墨表現ワークショップ」では、京都技法材料研究会会長の青木芳昭氏による指導で藁筆を作り、墨や水についても学び、それぞれ墨の表現を楽しんでいました。



イタリア・ボローニャ国際絵本原画展報告

11月6日(金)に始まった2015ボローニャ展。開会式を飾ってくれたのは、七尾市立大香保育園の年長さんによる「よさこい 海の子ソーラン」でした。海辺で育つ子どもたちの踊りは、8名とは思えないほど力強いものでした。7回目となった「おはなし劇場」、5回目となった「紙芝居劇場」ともに、定着してきたようで大盛況!!これだけを楽しみに来館される方も多く、開演前に展覧会を宣伝してみたり…。事前申込制の「かんたん絵本を作ろうよ!」は会場で参加希望される方が多く、定員オーバーでお断りする回もありました。ご協力いただきました、野間さん、ぽっかばかさん、もこもこさん、ありがとうございました。



大香保育園「よさこい 海の子ソーラン」



絵本作りでは、ケーキがどんどん大きく…♥



『かちかち山』のあらすじ、覚えてますか。



手を叩いて!!紙芝居『まんまるまんまたんたかたん』

当館所蔵品貸出情報（1月1日現在）

工芸「桑造木象嵌飾棚」1棹

氷見晃堂 昭和24年（1949）

（池田コレクション）

会場 石川県立美術館（金沢市出羽町2-1）

展覧会 新春企画展「工芸にみる石川の巨匠」

☎076（231）7580

会期 1月4日（月）～2月14日（日）

※展覧会の詳細につきましては石川県立美術館にお問い合わせください。

貸館催し物案内

市民ギャラリー

三人展（カオスの世界）

3月2日（水）～6日（日）

最終日は午後4時まで

七尾美術作家協会在籍五十有余年、育み学んだ三人です。現代の問題に真つ向から取り組み、各々独自のスタイルを確立致しました。お互いを認めあうことにより心の交流が自然発生的に三人展へと進行しました。是非ご高覧ください。

主催 三人展

連絡先 大地 統 0767（53）0207

アートホール

お別れ発表会

3月12日（土）

開演 午前9時15分

小丸山認定こども園では一年を通して成長した姿を見て頂きたく生活発表会を開きます。一人ひとりの成長した姿や、年長さんにとっては最後となる発表を、是非皆さんで見に来てください。

主催 小丸山認定こども園

連絡先 島崎 0767（53）3700

人形劇団 ほろき星・若杉合唱隊による

「次郎のたいこ」《小学校高学年～大人向け》

会員限定

3月12日（土）

開演 午後6時30分

人形本体はもちろん、舞台の大道具・小道具から音響まですべてが手作りです。石川県の児童文学作家かつおきんや氏の作品で、小松の民話をもとにしたお話です。ダイナミックな合唱隊も見どころ♪（参加には「七尾子ども劇場」入会が必要です）

主催 七尾子ども劇場

連絡先 打越 090（2831）9259

おたのしみ発表会

3月19日（土）

開演 午前9時30分

放課後児童クラブ員が一年間、友達と生活したなかで、協力しあうこと、創り出すこと、目標に向かって励ましあうを心に、全員参加の発表会をします。みなさん、是非見にきてください。

主催 小丸山放課後児童クラブ

連絡先 0767（52）3710

等伯コーナー

長谷川等伯展講演会報告

「等伯の障屏画について」

講師 脇坂 淳氏

（京都教育大学名誉教授）



私がこの七尾でお話をさせていただきますのは今回で3度目になります。最初は26年前の平成元年5月、その時は等伯会のお招きでした。そして2度目は七尾美術館で平成12年でしたが、それからもう15年が経ちました。この四半世紀の時間経過を思いますと、いろいろ感慨深いものを覚えます。

【総見院襖絵について】

本日は等伯の大画面作品についてお話いたします。等伯画の若年から晩年へかけての作画傾向を見ますと、「仏画・彩色・華麗・小画面→水墨画・無色・簡素・大画面」という具合に対立する二極・二物の変化がみられます。等伯が七尾を出て京に上ったのは元龜2年（1571）33歳の頃といわれますが、それから京都・大徳寺三門の天井画と柱絵を描いた天正17年（1589）までの約17年間、行状がはっきりしません。この謎の期間を少しでも縮めようと思ひまして、まずは天正11年創建の大徳寺塔頭・総見院の襖絵について考えてみることにします。

大徳寺山内の等伯画についての記録のうち、総見院画については『宝山誌鈔』（享保5年～1720）真珠庵）に「中ノ間 墨絵山水 等伯、礼ノ間 墨絵山水猿猴 同、檀那ノ間 墨絵菅雁 同」とあり、また『紫野大徳寺明細記』（文化8年～1811）真珠庵）では上記に加えて「大書院」の「墨絵山水」と「衣鉢閣」の「墨絵山水」も「等伯筆」と伝えていきます。そうしますと、総見院方丈は仏間を除く5室すべての襖絵が等伯によって描かれていたということになります。総見院は豊臣秀吉が織田信長の菩提を弔うために建立しました。ところが『多門院日記』により、竣工成った総見院へ参詣した秀吉は新造の「様体」、すなわちありさまが気に入らなかったため、即座に壊して内野へ引き移させたと伝えていきます。総

見院の内部はおそらく狩野永徳（1543〜90）が手がけた障壁画で飾られていたと想像されますが、この作事のやり直しが絵師の交代劇を生じさせたのではなからうか、と私は推測しております。総見院の開祖は千利休（1522〜91）参禅の師でもある古溪宗陳（1532〜97）で、等伯旧知の利休や古溪との関係もあり、ここに等伯が登用される人脈は整っていたといえましょう。

総見院の礼ノ間の「山水猿猴」は『紫野大徳寺明細記』により「松、猿、竹、鶴、山水」とありました。「松に猿猴、竹に鶴」といえば、大徳寺に伝わる牧谿（生没年不詳）の「観音猿鶴図」三幅対が思い浮かびます。ここにおける等伯の牧谿画の鑑賞体験が、例えば京都・金地院所蔵の「猿猴捉月図」襖の猿猴などにみられます。また、出光美術館所蔵の「竹鶴図」屏風の竹や鶴の描法をみますと、牧谿画を換骨奪胎した図様であることがよくわかります。「竹鶴図」屏風は元々襖絵であったといわれ、こうした図様の竹鶴、あるいは猿猴が総見院の襖を飾っていたであろうと想像できます。

「楓図」にみる等伯の独自性

かつて大徳寺山内には、秀吉が母大政所の病氣平癒を祈願して建てた天瑞寺があり、狩野永徳が金碧障壁画を描きました。永徳はここに大胆な構成を示し、各部屋に単一主題の花木を配し、しかも彩色を施すという華麗な空間を作り上げたのです。こうした大画面での巨木表現が桃山時代の典型様式でした。一方、等伯の彩色画としてよく知られるのが祥雲寺障壁画です。祥雲寺は天正19年（1591）、僅か3歳で他界した息子・鶴松（棄丸）の菩提を弔うために秀吉が京都東山の地に建てました。その方丈（客殿）は、大きかったとされる天瑞寺方丈と比べても約1・6倍の規模を持つ壮大なものといわれます。ここに等伯一門

は障壁画制作の機会を手に入れ、文禄2年（1593）、等伯55歳の時に完成させました。

その中で等伯筆「楓図」をみてみましょう。秋も深まり、楓の緑の葉が黄色から赤に移り変わる微妙な変化を大胆に捉えて、時間の幅を感じさせます。楓の幹はこの世に存在するのかわかるといえるほど大きく、杵を越えて天空高く伸びていきます。この巨木表現は永徳によって完成されたスタイルに倣いつつも、上の方から緩やかに斜め下方へ伸びる枝はまるで母親の腕のように、萩や木犀、白菊に桔梗、赤や白の鶏頭といった秋草を優しく掩います。枝振りは一見豪腕のようにみえますが、柔らかなで血の通う気配すら感じさせます。それは永徳画とは別の独自の表現がみられるからで、これを等伯の「人体的樹木表現」と名付けておきましょう。そして秋草をはじめとした諸々の草木が画面いっぱい、隙間無くちりばめられています。それは花木草花が咲き乱れる極楽浄土にもみえます。また、金地に映える色とりどりの色彩のシンフォニーは、すでに信春時代の「三十番神図」（高岡市・大法寺蔵）にみられるところで、その「二十日 客人権現」の背景に描かれる図様が「楓図」のきざしとよくいわれてきました。ただ、それにとどまらず「三十番神図」全体がかもし出す鮮やかな色彩の組み合わせ、そこに等伯生来の資質である優れた色彩感覚が認められ、それが「楓図」に遺憾なく発揮されているといえます。加えて「楓図」が数百年を経てもなお清新さを保ち続けているのは、水（景）を表す群青色と金色との関わり方にもあります。無機質の極みである金地金雲と、生命を謳歌する樹木草花の世界、その乖離した世界を融和させるかのように曲線と直線で区切った水（景）が置かれていいます。巨幹の左側に覗く水（景）の曲線美こそ印象に残る形態として忘れ難いものでしょう。

一方「桜図」は金地金雲に桜花が咲き乱れ、そ

れを縫うかのように枝垂れ柳が下りてきて、艶やかな中に細やかな風韻が漂います。地上には葎や蒲公英、山吹に躑躅、さらには燕子花が春を謳歌しています。それらの草花をやはり巨幹から斜め下方へ張り出した枝が優しく掩い、「楓図」と共通する構成を示しますが、どこか違った感じを受けます。「楓図」が豪壮で力強いリリズム、抒情性とし、と、「桜図」は繊細可憐で清雅端麗な趣ということになりましょう。この違いによって「桜図」は等伯の息子・久蔵（1568〜93）の筆といわれます。ところが久蔵は、文禄2年8月5日の祥雲寺の完成と鶴松の三回忌法要を待たずして、6月15日に他界してしまいます。26歳でした。大仕事を終え、いよいよ狩野派に負けない仕事ができるようになった矢先のことです。等伯の落胆ぶりは想像するに余りあります。そしてこうした時期に生み出されたのが、あの「松林図」屏風（東京国立博物館蔵）であろうと思われる。

「みるものを魅了する「松林図」

「松林図」は謎に満ちています。それだけにさまざまに語られてきました。右隻の料紙を見ますと、5段貼りのところと6段貼りのところがあり、継ぎ目を通っていません。つまり紙継ぎに錯綜が認められる訳です。左隻の紙継ぎにもやはり錯綜があります。また、土坡の線にもずれが認められますから、もとは上下左右にかなり広がりのある襖か壁貼付のような大画面だったのではないかとはいわれます。それに紙質が薄くて粗末であるため、草稿とみる向きもあります。伝来についても幕末から明治時代以降のことしかわかりません。そのため復元も正確な結論を導けずにあります。そのための形状がどんなものであったにしろ、等伯畢生の名作であり、日本水墨画の最高峰の座を揺るがせるものではなく、現状のままで十分に人々を魅了して止まないであります。

部分をみますと、幹を思い切って描き消すことによって、棚引く空気の状態を表現しています。

「竹鶴図」にもみえましたが、この空気感ほ牧谿画に倣ったというだけでなく、等伯自身の自然体験にもとづくものといえます。いまも七尾へ向かう道を走りまわると「松林図」から飛び出てきたかのような松の樹に出会います。こうした松林は等伯にとつての原風景なのだ、という思いを抱かせてくれます。「松林図」に見合う実景探しも悪くはありません。しかし、なんといっても「松林図」の魅力は見る人との語りの中にあるといえましょう。霧は晴れるのか、それともますます濃く、深くなっていくのか、晴れそうで晴れないのか、「松林図」と対話する人の心の反映次第です。ある人が「作品との対話、とよくいいます。私は松林図とは本当によく話をしていきます。その時々、自分が抱えている誰にもいえない気持ちや迷い、悩み、嬉しいこと、未来を見据えた目標、なんでも心に浮かぶことを話しかけるのです。そうしていると1時間なんてあっという間に過ぎてしまつて、帰るときにはどこかすっきりした気持ちで、また、いつか会いましょうね、と旧友と別れるようにその場を立ち去ることが常となりました」といつていたのを思い出します。

霧のような空気、この余白が包容力となつてみる人の心を開かせてくれます。そして松の樹の形態も重要な働きをしています。屏風を折り曲げて立てた場合顯著になりますが、右隻の第1扇の松と第4扇目の松の枝がそれぞれ手招きをして、あたかも母親が両腕をいっぱい広げて、幼児を抱きしめるように、両者の間の霧の中、奥深くへ誘い込んでくれます。それは左隻の第4扇と5扇の松の枝振りにもいえることです。これは先にも触れました等伯の「人体的樹木表現」のなせる技にほかなりません。

また遠目には優しく見える松の樹であります

が、近寄って見ますと葉叢を表すタツチの激しさに驚かされます。人一倍詩情豊かな等伯が、将来を託すに足る力量を持った我が子久蔵を失ったとき、悲しみの詩情は慟哭の烈情をもって覆われたのではないのでしょうか。この激しいタツチからは運命の非情に向かつて悲しみの底からわき起こる慟哭の烈情、そうした等伯の絶唱が聞こえてくるようです。

【画中人物たちは語る】

次に画中の人物に注目してみましよう。京都・圓徳院所蔵「山水図」襖の雪景場面をみますと、画面の人物たちはいずれの人物も小さく描かれ、大自然の添景に過ぎません。それは東京国立博物館所蔵の「瀟湘八景図」屏風も同様で、人物はあくまでもお添えものです。つまり山水に主眼が置かれています。

そして慶長4年（1599）、等伯は京都・隣華院に「山水図」襖を描きました。同図は四方四季の慣わしにのっとり、北側に冬の景観を表しています。北側の面に大きく描かれる圭角鋭い角張った岩の表現は等伯独特の造形で、また松の幹の輪郭線を濃墨と淡墨の部分に分けて表し、淡墨のところは霧か霞か、何か空気の状態を暗示させます。雪の積もった四阿に1人の高士が悟りを得たような風情で腰を下ろして遠くをみやっています。一方、東側は春から夏にかけて、そして西側は夏から秋にかけての景観です。東側の岩や竹林にかかる雲気、そして霧は立ち昇り、水温む柔らかな春の光を感じさせます。東側の南よりはもう夏で、遠くには青山、近くは岩の割れ目から生え上る松の樹、その下では高士が団扇で涼風を呼び込んでいます。西側へ回りますと、これまた大きな岩がどつかと座り、樹木の幹は先ほどの北側の面と同じように、濃墨と淡墨を極端に使い分けて空気表現をしています。左上の雁は秋を表す景

物です。そして巻物のようなものを背負って歩む人物がおります。以前、私はこの人物を等伯自身の姿かもしれない、と申したことがあります、いかがでしょうか。

つまり隣華院「山水図」では、添景人物とはいえ各人が何らかの意を主張するようになるのです。さらに慶長6年（1601）、等伯63歳時に描かれた京都・真珠庵所蔵の「蜆子猪頭図」襖などでは、人物が主体性を帯びて山水的要素が背景に回っていくようになっていきます。

それと、等伯は超能力の持ち主に次第に強く魅かれていったのか、晩年になると高潔な高士や隠士、禅宗の祖師といった、いわゆる道釈人物や仙人像を多く描くようになります。悟りの境涯への憧れが、脱俗の人物たちへの傾斜になったのでしょうか。京都・壬生寺所蔵「列仙図」屏風は山の中に佇む仙人たちを描いたものではありますが、もはや自然の大景観を捉えようという意図は薄らいでいます。また慶長7年（1602）、64歳の等伯が京都・南禅寺塔頭の大授庵に描いた「禅宗祖師図」「商山四皓図」襖では、いずれの場面も人物の姿を大きく表し、簡潔な構図で印象深く描いています。

ところで、これらの作品には度々童子が描かれており、大いに気になります。一体、この童子にはどのような意味があるのでしょうか。想いを巡らせるに、1つはこの世と仙人の住む世界を繋ぐ役目として描いたということ。そしてもう1つは、童子に亡き久蔵の面影を重ねているのではないかとことです。皆さまも等伯が描き込む「謎の童子」に注目してご覧いただければと思います。

本文は平成27年4月29日に行われた「長谷川等伯展」特別講演会の内容を、当館の責任においてまとめたものです。



これからの展覧会予定



平成28年4月23日(土)～5月29日(日) 会期中無休

◆第1・2・3展示室 平成28年度春季特別展

「長谷川等伯展 ～長谷川派 - 等伯と一門の精鋭たち～」(仮称)

「長谷川派」。それは、長谷川等伯を中心に息子や弟子たちによって形成された絵師集団。桃山時代に京都画壇を席卷する勢いで、大寺院などを舞台に奮迅の活躍をみせました。今回の「長谷川等伯展」は「長谷川派」をテーマに、晩年の等伯や一門の絵師たちなどによる個性豊かな作品を紹介する予定です。



「鳥巢図屏風」
長谷川等伯
大阪市立美術館蔵



「秋草図屏風」
長谷川宗宅
京都市・南禅寺蔵

平成28年度 石川県七尾美術館友の会会員募集のご案内

新年度友の会会員を次の要領で募集いたします。現在会員の方で更新をご希望される方は改めてお申込みください。お申込みのない場合はそのまま退会となりますのでご注意ください。

★入会手続き★ ①受付開始 3月1日(火)から【年度会費1,000円】

②受付場所 当館受付カウンターまたは郵便受付

(郵便振替用紙をご利用ください)

※郵便局備え付けの振替用紙の通信欄に必要事項《会員の区別(更新・新規・元会員)・郵便番号・住所・電話番号・氏名・生年月日》をご記入のうえ、会費を添えて最寄りの郵便局窓口へお出しください。払込手数料は恐縮ですがご負担ください。会員証のお渡しには会費払込後10日ほどかかります。

郵便振替口座番号 00710-0-50795
加入者名 石川県七尾美術館 友の会

★友の会特典★

- その1 当館主催展覧会の観覧料が割引になります。
- その2 情報満載「美術館だより」をお送りします。(年度内4回発行)
- その3 相互割引提携館主催の展覧会観覧料が割引になります。(会員本人のみ)
- その4 特別企画展開会式・内覧会に招待します。(無料・一部除く)
- その5 販売グッズが割引になります。(一部除く)
- その6 喫茶室飲食代金が10%割引になります。(10円未満切捨)



平成28年度 石川県七尾美術館
友の会会員証

「色絵山水図瓢形大徳利」
吉田屋簾
(池田コレクション)

※左記のほかにも友の会会員限定の催し、特典がございます。4月からご活用くださいますよう、お早目のご入会をお待ちいたしております。

◇「美術館等共通パスポート」販売中!◇

対象は七尾市内の8文化施設。期間中(1年間用・2日間用の2種類のパスポートが選択可)、何度でも入館できる便利な観覧券です。詳しくは、美術館までお問い合わせください。

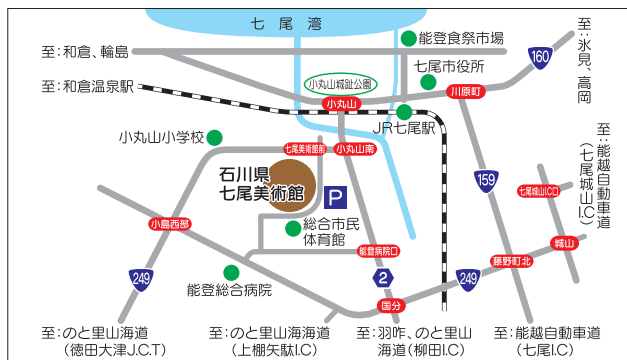


割引、プレゼントなど特典いろいろ!ぜひ当館でもご利用ください。

無線でネット



エントランスホール及びティールームにて、Wi-Fiスポットサービスの「FREESPOT」をご利用頂けます。



飛行機……のと里山空港から「のと里山海道」利用約45分
車……「のと里山海道」徳田大津J.C.Tから約15分又は「能越自動車道」七尾城山I.C又は七尾I.Cから約10分
タクシー……JR七尾駅から約5分
徒歩……JR七尾駅から約20分
市内循環バス「まりん号」
……JR七尾駅前「ミナ・クル」バス停から「七尾美術館前」下車(順回り約8分・逆回り約14分、1日各8便)
なおコミュニティバス「ぐるっと7」
……JR七尾駅前5番乗り場から「小丸山台1丁目」下車(西コース約10分、1日4便)

◎次号・第85号(春号)は4月1日発行予定です。

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2016
1
JANUARY

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

2
FEBRUARY

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

3
MARCH

◆1月～3月カレンダー◆
◆開館時間◆ 午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
※ 日は休館日

〒926-0855 石川県七尾市小丸山台一丁目1番地
TEL(0767)53-1500/FAX(0767)53-6262
http://nanao-art-museum.jp

石川県七尾美術館だより

第84号(冬号)